

本部 令和4年度 事業計画書

令和4年度総務室長 清水 良憲

本部 令和4年度事業報告

令和5年度総務室長 清水 良憲

方針

- ・職場環境の整備を進め職員の処遇改善を図る。
- ・事業全体を見直し中期計画を策定する。

方針

- ・職場環境の整備を進め職員の処遇改善を図る。
- ・事業全体を見直し中期計画を策定する。

事業計画の内容		具体的手段		責任者	
目標	目的	実行計画	期限	正	副
職員としてなるべき姿を明確化した上でキャリアアップ制度の見直しを行う等、継続して新卒者を確保する。	人材育成及び支援員の質の向上を図る。また、法人をアピールし、必要な人材確保を行う。	① 職員一人ひとりが目標をもって働くことができるよう、階層別に役割を明確にし、教育体系を整備する。	令和5年3月	室長	補佐
		② 当法人の魅力をさらに発信するため、ホームページ、SNS等を活用する。また、さらにアピールできる魅力をつくり、関係機関への訪問等を実施する。	令和4年9月	室長	補佐
中期計画を策定する。	将来への見通しや目標を明確にする。	③ 法人全体の課題を抽出することで、数値目標設定と行動計画を作成し、中期計画を策定する。	令和4年12月	室長	補佐
環境整備や処遇改善のための財源の確保。	計画的な設備整備や処遇改善を行う。	④ 予算・事業計画の執行状況管理や金銭、固定資産・備品等の管理、経理規程に基づき適切に運用されているか各事業所の巡回を行う。	令和5年3月	室長	補佐
		⑤ 中期計画に基づき職員の処遇改善計画を作成する。またそれに伴い規則規程を見直す。	令和5年3月	室長	補佐
		⑥ 法人全体の契約等取引状況を把握し、契約や業務委託等、将来を見据えたものに見直す。	令和4年12月	室長	補佐

事業報告		
目標に対する結果	課題	今後の取り組み
新規採用者4名確保することができた。 ・仁愛女子短期大学 2名 ・鯖江高校 2名	① 教育体系図の整備や、それに沿った研修計画の作成。 ② IT委員会を中心に規程を整え、9月からFacebook、Instagramの更新しているが、ホームページ等のリニューアルはできていない。	① 教育体系図・職員の目標設定およびそれに沿って教育を行っていく。 ② 採用サイト・HP等の閲覧サイトを専門業者と打ち合わせをして作成していく。
中期計画は作成できていない。法人の理念を具体化するため、ビジョンを作成した。	③ ビジョンにもとづいた中期計画の作成が必要。	③ 中期計画を作成後、各事業所に周知し、それにもとづいた運営及び各事業所の中期計画を作成していく。
財源の確保 令和4年度の積立額5,000千円 令和3年度の積立額26,000千円	④ 現金管理状況は財務室長補佐・主任が全事業所の巡回を行う中で、細かな課題が見えてきたため、巡回の頻度を増やし、さらなる事業所の課題の把握・共有が必要。 ⑤ 資金計画(案)を作成した。今後、中期計画とともに所長会議等で周知する。	④ 事業所の状況を把握するために有効なため、巡回の回数を増やしていく。 ⑤ 資金計画を活用し、収支の改善を行っていく。
環境整備 ・事業所巡回を行い、予算・事業計画の執行状況管理や金銭、固定資産・備品等の管理、経理規程に基づき適切に運用されているか確認ができた。 ・契約書の見直しはできていない。	⑥ 全事業所の状況を的確に把握できていない。	⑥ スケジュール時期を明確にし、契約や委託に関して見直しを行う。

	スケジュール											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①	所長会議で検討	役割表教育体系作成	職員への周知		状況確認	評価				振り返り	就業規則見直し	評価
②	委員会設置	委員会での検討	情報収集	掲載事項の検討	関係機関への訪問							
③	情報収集	所長会議検討	課題の抽出	所長会議検討	案の作成	所長会議検討		理事会提出	評議員会提出	周知		
④	経理規程遵守確認	決算振り返り	執行状況確認	事業所巡回	執行状況確認					執行状況確認	固定資産原物確認	事業所巡回
⑤						情報収集	所長会議検討	規則規程の改定	情報収集	所長会議検討	処遇改善計画作成	
⑥	契約状況等の把握			契約先、委託内容比較検討			契約変更					

	スケジュールに対する結果											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①	所長会議にて提案	役割表、教育体系についての案を作成中			役割表、教育体系の検討			役割表、教育体系、給与規程の改定案を作成中				教育体系図・新卒職員の教育体系図作成
②	委員会を設置	委員会で規程案を検討中		規程作成		各アカウント作成、運用開始	毎週、各事業所のサービス内容や商品・イベント紹介等を中心に、更新している			商品・イベント紹介等を中心に、更新している		HP等打ち合わせ
③	固定資産の状況確認	取り壊し費用の算出 滞の交番の今後を計画				事務局内で検討			中期計画案を作成中			
④	予算の執行確認						事業所巡回					事業所巡回
⑤						資金計画(案)作成						
⑥							契約状況の把握					







若狭事業所 令和4年度 事業計画書

令和4年度所長 早佐古 達也

若狭事業所 令和4年度 事業報告

令和5年度所長 早佐古 達也

方針

- ・利用者の適性に応じたサービスを提供する。
- ・全職員で将来を見据え、事業の見直しを行う。

方針

- ・利用者の適性に応じたサービスを提供する。
- ・全職員で将来を見据え、事業の見直しを行う。

事業計画の内容		具体的手段		責任者	
目標	目的	実行計画	期限	正	副
【就労継続支援A型】 就労継続支援B型への移行4名以上	就労支援事業の継続	①雇用契約が難しい利用者4名を就労継続支援B型へ移行する。また、各部門の見直しをする中で、就労継続支援A型の定員縮小や就労継続支援B型への転換を検討する。	令和5年3月	主任	サブ
【就労継続支援B型】 新規利用者2名確保	定員数と現員数の乖離を減らす	②作業種を見直し、工賃の確保及び、利用したいと思っただけの内容に変えていくことで、地域の相談支援事業所等からの新規利用者の獲得を目指す。	令和5年3月	サブ	主任
【生活介護】 新規利用者1名確保	定員数と現員数の乖離を減らす	③活動プログラムをニーズに応じ3種変更し、行政や相談支援事業所への周知を行い、利用促進を行う。また、特別支援学校の実習生(令和3年度実績:高等部現2年生2名)を利用に繋げる。	令和5年3月	サブ	支援員
【日中一時】 新規利用者3名確保	他法人との差別化、個別活動の充実	④活動プログラムの見直しを行い、ニーズに応じた新規活動を3種類/年取り入れる。自立支援協議会等で周知し、利用者増を目指す。また、情報収集し、必要に応じ廃止や別サービスへの移行を検討する。	令和4年9月	サブ	支援員
【共同生活援助】 高齢利用者2名の移行	現利用者の移行、新規利用者確保	⑤保護者面談時に聞き取りし全利用者の今後5年、10年の計画を立てる。また、高齢利用者に関しては移行先の施設を探す(訪問・見学・体験)。また、ニーズ調査等を行い将来を見据えた中期的な計画を作成する。	令和5年3月	サブ	支援員
【相談支援】 契約者数+15件	給付費収入増	⑥特別支援学校や行政を定期的に訪問し、関係性の構築、利用希望の調査を行う。また、法人内(若狭・小浜事業所)で別法人の相談支援事業所を利用している方に対し、事業所を通じ情報提供を行ってもらい、新規利用者の確保を行う。	令和4年12月	相談支援専門員	管理者

事業報告		
目標に対する結果	課題	今後の取り組み
【就労継続支援A型】 就労継続支援B型へ3名移行	①作業能力が低い社員のB型へ移行が完了していない。定員縮小については検討できなかった。	①保護者面談実施及び相談支援事業所と協力して、令和5年度B型に5名移行する。
【就労継続支援B型】 新規利用者1名確保	②定員20名に対し5名達していない。作業種の見直しは単価の低い内職を廃止し、新たに除草受託を開始し、利用したいと思ってもらえるように取り組んだが、利用者は増えなかった。	②長期休暇中の利用者が2名いるため、定期訪問等の支援し、利用日数を増やす。
【生活介護】 新規利用者1名確保	③活動プログラムの作成について、室内体操、園芸の2種類増やせた。相談支援事業所に周知したが利用者獲得にはつながっていない。地域の特別支援学校の卒業生が減少しており、新卒者の新規利用確保が難しい。	③他法人入所施設と連携し入所者の生活介護利用受け入れを促進する。特別支援学校の生徒に実習につながるよう定期的に訪問する。
【日中一時】 新規利用2名確保	④活動プログラムの見直しはできなかった。自立支援協議会児童部会に出席し情報収集を行ったが廃止や代替移りの検討はできなかった。	④本部・福井事業所と一緒に、来年度を目処に放課後等デイサービスへの移行を検討していく。
【共同生活援助】 高齢利用者1名退所	⑤高齢利用者の対応について、今後どのようなライフスタイルに移行していくか、5名面談を行った。話す内容を理解されていない方もおられた。わかさ寮の利用者が14名と定員に対して6名不足している。	⑤入所施設等の見学を行い、時間をかけてイメージしてもらおう。グループホーム2拠点の統合・再編を検討する
【相談支援】 相談者数+13件	⑥特別支援学校の訪問について年3回行い、新規利用者の獲得になった。相談支援専門員1名体制となったことで他法人や行政や学校訪問が減少したため、年度後半は新規利用確保できなかった。	⑥行政等へ四半期毎に訪問し情報共有を行い利用者確保する。

スケジュール												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①		B型へ2名実習	B型へ2名移行	・四半期収支確認、評価	B型へ2名実習	B型へ2名移行	・四半期収支確認、評価	サービス変更検討		・部門会議・四半期収支確認	サービス変更検討	
②		A型から2名実習受入	A型から2名移行		A型から2名実習受入	A型から2名移行		特別支援学校実習受入	・訪問・作業確保		特別支援学校実習受入	利用者確保(2名)
③	メニュー作成データ管理	特別支援学校実習受入	メニュー改善データ管理	メニュー作成データ管理	メニュー内容振り返り、評価		特別支援学校実習受入	メニュー改善データ管理	メニュー内容振り返り、評価	特別支援学校実習受入		利用者確保(1名)
④	自立支援協議会にて周知	利用者確保(2名)	メニュー内容振り返り、評価	行事・施設観覧	新規活動の導入	自立支援協議会にて周知	メニュー内容振り返り、評価	利用者確保(1名)	サービスの検討			
⑤	面談5名行政・施設訪問	面談5名行政・施設訪問	面談5名行政・施設訪問	高齢利用者1名移行	面談5名行政・施設訪問	面談5名行政・施設訪問	高齢利用者1名移行	将来計画作成	中期計画作成	中期計画作成		
⑥	学校行政訪問	基幹相談支援訪問	情報収集	学校行政訪問	基幹相談支援訪問	利用者確保(5名)	学校行政訪問	基幹相談支援訪問	利用者確保(5名)	学校行政訪問	基幹相談支援訪問	利用者確保(5名)

スケジュールに対する結果												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①	B型移行者面談・支援会議	B型へ1名移行	8月～B型移行向け保護者面談	B型移行者へ支援会議・B型の実習	B型へ1名移行した	10月～B型移行向け実習	四半期収支確認、評価	サービス変更検討		B型へ1名移行	サービス変更検討	
②	A型～実習1名受入	A型から移行1名	新規利用者1名(他法人B型から)	A型～実習1名受入	A型から移行1名	A型～実習1名受入	地域企業の除草作業①	作業確保で企業まわり	地域企業の除草作業②			地域企業と新規作業打ち合わせ
③	個別活動の見直し新規活動の検討	特別支援学校の実習者なし	現在3種の新規活動を提供	体力づくりを個別活動に取り入れる。		「クオ・キン」開始個別活動メニュー見直し			他法人相談支援と利用調整開始	新規利用1名利用開始	他法人相談支援と利用調整	
④	協議会参加・告知	他法人相談と新規利用調整	新規利用者2名	長期利用児童保護者面談	サマースクール実施	職員・ボラ支援内容振り返り評価			ウインター・スクール開催			スプリング・スクール開催
⑤	面談3名高齢重度者他法人実習開始	面談3名高齢重度者医療機関連携	面談1名高齢重度者医療機関連携	面談3名、高齢重度者医療機関連携	面談2名、高齢重度者医療機関連携	面談1名、高齢重度者医療機関連携	面談3名	入院中利用者の入所調整	入院中利用者の入所体験		入所体験の調整	高齢重度利用者1名退所
⑥	行政訪問利用者確保(1名)	行政訪問利用者確保(2名)	利用者引継ぎ利用者確保(3名)	利用者引継ぎ利用者確保(2名)	利用者確保(2名)	行政訪問情報収集	学校・行政と懇談	学校・児童施設関係者と懇談		学校行政訪問	基幹相談支援訪問	



丸岡南中事業所 令和4年度 事業計画書

令和4年度所長 幅口 岳晴

方針

- ・就労継続支援A型事業の継続のため、作業能力および適性のある社員の雇用継続および新規採用することでの生産能力向上と商品開発を行い新たな収入源を作っていく
- ・共同生活援助の給付費増を目指す

事業計画の内容		具体的手段		責任者	
目標	目的	実行計画	期限	正	副
【就労継続支援A型】 就労事業の黒字継続 ・社員2名移行 ・新規社員1名雇用 ・学校長期休暇時の売上増 (25,000円/日) ↓ (29,000円/日)	就労継続支援A型として事業を継続して行っていくため	① 作業能力の低い社員や体力に衰えや低下が見られる社員を計画的に適性サービスへ移行を行う。令和4年度は2名の利用者を適正なサービスへ移行を行う。	令和5年3月	サビ管	支援員
		② 新たに将来調理師資格を取得できる能力を有する利用者を1名確保する。ハローワークや学校などに求人募集を行う。	令和5年3月	サビ管	支援員
		③ 学校の長期休暇時にお弁当以外の商品(事業所製造のお惣菜、他事業所製造の商品(パン、クッキー、おこわ等)も販売し、売上前年度対比150千円増に取り組む。	令和5年3月	支援員	主任
【共同生活援助】 新規利用者1名獲得	定員充足率の向上を行い給付費収入増を行うため	④ 現在、男性グループホーム定員5名 現員5名、女性グループホーム定員7名 現員3名となっており、男性グループホームは定員がいっぱいのため受け入れができない状況。そこで、男性と女性のグループホーム利用者の入替を行い、男性2名、女性2名の受け入れが可能となる。令和4年度は、相談支援専門員や保護者などにアピールを行っていき新規利用者1名を獲得する。	令和4年9月	サビ管	世話人

スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①	→											
			面談	見学	実習	1名移行 面談	1名雇用	面談	見学	面談	実習	1名移行
②	→											
	求人募集・見学・実習						面接・1名雇用					
③	→											
	商品開発 会議	商品開発 会議	商品開発 会議	チラシの作 成 各施設営 業	商品販売	商品開発 会議 商品改良	商品開発 会議 商品改良	チラシの作 成 各施設営 業	商品販売	商品開発 会議 商品改良	チラシの作 成 各施設営 業	商品販売
④	→											
	準備 募集	面談・説明 募集・見学	面談・説明 面談時案 内	手続き 募集チラ シ配布	手続き 見学会 体験利用	契約・引 越し 1名契約	募集継続 1名利用 開始					

丸岡南中事業所 令和4年度 事業報告

令和5年度所長 幅口 岳晴

方針

- ・就労継続支援A型事業の継続のため、作業能力および適性のある社員の雇用継続および新規採用することでの生産能力向上と商品開発を行い新たな収入源を作っていく
- ・共同生活援助の給付費増を目指す

事業報告		
目標に対する結果	課題	今後の取り組み
【就労継続支援A型】 就労事業の黒字継続 ・他事業へ社員1名移行、一般就労1名 ・新規社員1名雇用、他事業所より3名雇用 ・学校長期休暇時の売上30,000円/日	① 適正なサービス移行を2名行えた。利用者本人は移行の希望があるが、保護者との意見が違うケースが2件ある。 ② 調理師資格を取得できる可能性がある求職者の多くが精神障害者となるため、受け入れ側の精神障害者に対する経験値が低く見極めが難しい。 ③ 今年度は期間限定の給食受託があったため、他事業所の商品販売はできなかった。期間限定となり令和5年度の売上増に関しては課題となる。	① 保護者を含めた面談の中で、状況報告や説明を慎重に行い、保護者・本人の納得したサービスへの移行を進める。 ② 調理業務を適切に行える社員の採用基準となる評価表を作成する。 ③ 学校関係だけでなく他法人等の新規顧客を確保し、お弁当の販売を拡大する。(令和4年度:300,000円/期間→450,000円/期間)
【共同生活援助】 新規利用者3名獲得	④ 入替を行いハーツ丸岡ハイム(男子寮)として定員7名中7名、まち中ホーム(女子寮)が定員5名中3名となっている。利用に結び付くように、面談時に利用を促したり相談支援専門員と情報を共有しているが候補者も少ない状況。	④ 令和6年度に向けて、今後、女子寮をこのまま継続するか、ニーズの多い男子寮に転換するかの検討を令和5年7月までに行う。

スケジュールに対する結果

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①	→											
	面談	見学	1名移行	面談		面談	見学	2名面談			2名面談	
②	→											
	求人募集			ハローワーク三国6回訪問 派遣会社5社から4人紹介	シルバー人材センター訪問	ハローワーク4回訪問 見学、面談を実施して11月より利用開始				見学希望者2名受入れ		
③	→											
	商品開発会議			チラシの作成 各施設営業	商品販売	商品開発会議	給食受託開始		冬期休暇 弁当販売	給食受託製造	給食受託終了	
④	→											
	準備募集	面談・説明 募集・見学	面談・説明 面談時案内	手続き 見学受入	たつかわ寮と合併	面談・説明						







あわら事業所 令和4年度 事業計画書

令和4年度所長 幅口 岳晴

方針

- ・長期的に安定した事業所運営を目指し、利用者の確保・事業の収益性向上に取り組む。
- ・利用者の権利擁護に努め、利用者ニーズに基づいた柔軟で質の高いサービスの提供。

事業計画の内容		具体的手段		責任者	
目標	目的	実行計画	期限	正	副
【就労継続支援B型】新規利用者2名の確保	定員数と現員数の乖離を減らす。	① あわら・丸岡南中事業所の就労継続支援A型を利用している方で、作業能力の衰えから継続利用が難しい方3名に対し、対象事業所と連携し、本人に適したサービスの提案等を行い、利用に繋げる。	令和4年12月	相談員	サビ管
【生活介護】新規利用者1名の確保		② 令和4年2月から体験利用中1名の方について、本人の特性にあった支援を行い継続利用に繋げる。また、地域の相談支援事業所へ定員数等の情報提供を行い、利用者確保に取り組む。また、利用者の方々、より過ごしやすい活動スペース、プログラム作りに取り組み利用率向上を行う。	令和5年3月	サビ管	支援員
【たつかわ寮】体験利用者の継続利用		③ 令和4年2月から体験利用中1名の方について、日中支援事業所でもある丸岡南中事業所と連携し継続利用に繋げる。	令和4年5月	サビ管	支援員
【就労継続支援B型】収益率 5%UP (300,000円)。	利用者平均工賃25,000円以上。	④ 令和3年度、平均工賃25,000円。令和4年度目標とする2名の利用者を確保し、この工賃水準を保つには、約300,000円の収支改善が必要。収益率の良い商品の販路拡大(10社)。また、近隣企業(10社)を訪問し新規作業取得。その他、作業場の寒暖対策など働きやすい環境づくりに取り組む。	令和5年3月	支援員	サビ管
【就労継続支援A型】平均月額給与2.5%UP	利用者満足度および作業意欲・能力の向上。	⑤ 令和3年度、平均月額給与86,350円。利用者の能力・意欲向上を目指し、最低賃金UP率1.5%UP/年以上の2.5%UP/年、約220,000円の収支改善を行う。受託作業単価交渉により60,000円、空き家管理・ハウスキーパー作業の新規受託により160,000円の収益確保に取り組む。	令和5年3月	支援員	支援員
【相談支援】契約者数+4名	給付費収入増。	⑥ 法人内(福井・丹南事業所)で、別法人の相談支援事業所を利用している方に対して、事業所を通じて情報提供を行ってもらい、新たな利用者の確保を行う。	令和5年3月	相談員	管理者

スケジュール												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①			利用者2名モニタリング	相談対応・事業所見学・面談		利用者確保(1名)	利用者1名モニタリング	相談対応・事業所見学・面談	利用者確保(1名)			
②	体験利用者面談	利用者確保(1名)	パーティションを使用したスペース作り	新たな活動プログラム策定	地域相談事業所訪問	スペースの検証・見直し	地域相談事業所訪問	活動プログラム検証・見直し	事業所見学(1名)	体験利用(1名)	スペースの検証・見直し	利用率向上
③	体験利用者面談	利用開始										
④	DM作成	DM発送(30社)	近隣企業訪問(5社)	作業場空調・換気設備導入	販路拡大(5社)		近隣企業訪問(5社)	販路拡大(5社)	新作業受託			工賃確保
⑤	チラシ作成	行政訪問しチラシ提出 広報依頼	空き家所有者へチラシ発送(行政より500件)	作業受託(累計2件)	広報誌掲載(広報あわら)	受託先単価交渉	時給UP	行政訪問しチラシ提出 広報依頼	空き家所有者へチラシ発送(行政より500件)	広報誌掲載(広報あわら)	作業受託(累計10件)	
⑥		福井事業所情報収集	丹南事業所情報収集	事業所訪問・面談(2名)	利用者確保(2名)		福井事業所情報収集	丹南事業所情報収集	訪問・面談(2名)			利用者確保(2名)

あわら事業所 令和4年度 事業報告

令和5年度所長 幅口 岳晴

方針

- ・長期的に安定した事業所運営を目指し、利用者の確保・事業の収益性向上に取り組む。
- ・利用者の権利擁護に努め、利用者ニーズに基づいた柔軟で質の高いサービスの提供。

事業報告		
目標に対する結果	課題	今後の取り組み
【就労継続支援B型】新規利用者1名の確保となり、目標の2名は達成できていない	① 法人内の異動により1名の確保が達成できたが、他法人や特別支援学校からの新規利用者はいない。	① 相談支援事業所・特別支援学校へ年2回挨拶回りに伺う。丸岡南中事業所A型からのサービス移行対象者に対して、見学や実習の提案を行う。
【生活介護】新規利用者1名の確保	② 相談支援専門員の紹介で1名5月に本契約を結んだが、他に利用希望者3名依頼があり検討した結果、支援体制が整わないため受け入れが難しいと判断に至り利用に繋げることができていない。利用者の活動スペース・プログラムの作成後、利用率向上にはつながっていない。	② 相談支援事業所・特別支援学校へ年2回挨拶回りに伺う。人材育成を行い、支援体制を強化していく。活動スペース・プログラム作成を令和5年7月までに完了予定。
【たつかわ寮】9月末で廃寮となった	—	—
【就労継続支援B型】昨年対比収益率4.1%UP(収支約1,800,000円増)	④ 箱折の新規受託作業(月約70,000円)を確保でき、令和4年度平均工賃は25,100円だった。寒暖対策としてファンつき作業着10着購入し、作業場の配置を変えてエアコンが設置されている居室で作業できるように行った。	④ 令和5年度も平均工賃25,000円以上で、事業活動収入+600,000円を目指す。シーツウエスの確保と、配達方法・ルートの見直しを実施し、収益率をUPさせ、作業種が多いので選定も実施していく。
【就労継続支援A型】平均月額給与5.5%UPできた	⑤ 令和4年度の平均月額給料は91,113円となり、受託作業単価も11月より値上げすることができたが、空き家管理・ハウスキーパー作業の新規受託は達成できなかった。	⑤ 空き家管理・ハウスキーパー作業等の新規受託を目指し、空き家管理だけでなく高齢者や独居老人の見守りサービスも含めた事業展開を行えないか検討していき収益確保していく。
【相談支援】契約者数+15名となった	⑥ 令和4年6月に法人内(嶺北地区)の15名と契約を結んだ。法人内の利用者のみ計画相談を行っており、法人外の新規利用者契約はない。	⑥ 令和5年4月から障害児相談支援事業を開始し、法人外の障害児・児の計画相談へ参入する。

スケジュールに対する結果												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①	モニタリング・面談	相談対応・担当者会議	利用者確保(1名)	対象者に見学事業所情報提供		利用者1名モニタリング	事業所見学提案		事業所見学(1名)	利用者1名モニタリング	事業所見学(1名)	事業所見学(1名)
②	体験利用者面談・担当者会議	利用者確保(1名)	新プログラム策定	事業所見学(2名)	事業所見学(1名)	スペースの検証・見直し	月毎に部門会議の実施	高等部実習(2名)	クールダウンの居室を新設			支援体制の見直し
③	体験利用者面談・担当者会議	利用者確保(1名)	丸岡との統廃合へ向けて動き出す	面談	担当者会議 理事会廃棄可決	引越越し	備品撤去等 賃貸契約終了					
④	2社訪問	DM作成 社訪問	DM45件発送 新規作業2社 検討	ファンつき作業着導入 新規作業受託	商品の価格 改定 販路拡大2社	1社訪問	作業場内の 配置換え を実施	作業の当 番制の導 入	在庫管理 の見える化	軍手編み機 定時停止日 設定		平均工賃 25,100円
⑤	チラシ作成・行政訪問	チラシ手直し・行政訪問しチラシ提出	空き家所有者へチラシ発送(行政より100件)	行政訪問	空き家所有者へチラシ発送(行政より400件)		受託先単価交渉で単価UP	行政訪問しチラシ提出 広報依頼	空き家所有者へチラシ発送(行政より500件)給与1名UP	ふるさと納税による空き家管理1件申し込みあり	ふるさと納税による空き家管理1件契約	
⑥	情報収集 アンケート作成・配布	アンケート 収集・集計 引継ぎ	利用者確保(15名)	基幹巡回 事業所訪問・面談	事業所訪問			若狭相談 支援事業 所訪問	障害児相談 支援事業 業検討	障害児相談 支援事業書 類作成	障害児相談 支援事業申 請書類提出	



小浜事業所 令和4年度 事業計画書

令和4年度所長 近者 篤

方針

- ・利用者個々に応じた良質なサービス提供に努める。
- ・利用者、職員共に快適で満足できる施設づくりを目指す。

事業計画の内容		具体的手段		責任者	
目標	目的	実行計画	期限	正	副
【生活介護】 利用者増 ・平均利用者数 R3年度見込20.4名 R4年度目標20.6名	・平均利用者数を向上する。	① 週1~2回のみ曜日限定の利用者3名に対し、本人・保護者と面談等で働きかけを行ない、週1回利用日を増やす。	令和5年3月	サ ビ 管	支 援 員
		② 利用者の満足度向上と職員の資質向上を目的に、介護福祉士国家資格者を現3名から4名に増やす。(令和4年度1名受講予定)	令和4年6月	サ ビ 管	支 援 員
【共同生活援助】 利用者確保 6名⇒7名	・給付費の安定を図る。	③ 小浜・若狭事業所の既存利用者等で、グループホーム入寮希望者がいないか情報収集し、寮生1名確保を目指す。	令和4年9月	主 任	サ ビ 管
		④ 在宅者や他法人の利用者含め、グループホーム入寮希望者がいないか相談支援員等と情報共有し、地域のニーズ調査を行い将来構想に繋がるデータをまとめる。	令和4年9月	主 任	サ ビ 管
【全体】 支援員2名増員 現10名⇒12名体制 (2カ年度)	・支援体制の強化 (充実したサービス 提供に繋げる)	⑤ 地域で知り合いの紹介や他法人など、広く求職者の情報収集を行う。2カ年で、2名の支援員増員を目指す。	令和4年9月	主 任	サ ビ 管
		⑥ 魅力ある施設づくりを目指し、快適で清潔感を保つため施設巡回を実施(年4回以上)し、不良個所の修繕や美化に取り組む。	令和5年3月	サ ビ 管	支 援 員

スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①	面談	利用頻度増	継続した働きかけ	面談	利用頻度増	継続した働きかけ	面談	利用頻度増	継続した働きかけ	面談	利用頻度増	継続した働きかけ
②	アセスメント	個別課題立案	課題提供 月12回	以降継続して提供								
③	情報収集 面談	情報収集 面談	情報収集 面談	情報収集 面談	体験受入	利用者確保						
④	地域調査	相談員 情報共有	行政調査	学校調査	相談員 情報共有	調査情報 まとめ						
⑤	ハローワーク 訪問	情報収集	情報収集	ハローワーク 訪問	情報収集	情報収集	情報収集の継続、1~2名採用					
⑥	施設巡回	不良個所 改善	環境美化	施設巡回	不良個所 改善	環境美化	施設巡回	不良個所 改善	環境美化	施設巡回	不良個所 改善	環境美化

小浜事業所 令和4年度 事業報告

令和5年度所長 近者 篤

方針

- ・利用者個々に応じた良質なサービス提供に努める。
- ・利用者、職員共に快適で満足できる施設づくりを目指す。

事業報告		
目標に対する結果	課題	今後の取り組み
【生活介護】 利用者増 平均利用者数 結果18.8名 目標に対して1.8名満たなかった。	①コロナによる休業や利用控えの影響が大きかった。2名に対し、週の利用日を増やすことができたが、1名は利用を増やせなかった。 ②介護福祉士国家試験に1名が合格。資格保持者を計4名に増やすことができた。	①他法人と併用している利用者に対して、利用増の面談提案を続ける。 ②さらに有資格者を1名以上増やす。
【共同生活援助】 利用者確保 結果6名 1名確保出来なかった。	③本人だけでなく、家族の意向が強く影響し、寮生確保が簡単ではない。 ④単発的なニーズ調査に終わってしまった。	③引き続き、入寮希望者がいないか情報収集し、利用者1名確保を目指す。 ④継続的に広く情報収集し、将来構想に繋がるデータをまとめる。
【全体】 増員出来なかった。	⑤求人において見学希望者は数名おられたがマッチングせず。職員体制の確保が急務。 ⑥年4回の施設巡回を実施し、不良個所の改善等に取り組んだ。計画的な設備等の入替えが必要。	⑤求人募集だけでなく、地域で知り合いの紹介を促す。 ⑥設備の入替え計画を作成。

スケジュールに対する結果

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①	保護者へ働きかけ	1名利用増 週2⇒4回	保護者へ働きかけ	面談					継続 実施中		相談支援 員と連携	1名利用増 週2⇒3回
②	アセスメント 個別課題 立案	個別課題 の提供増 月8⇒12回	介護福祉士 実務者研修 1名受講中						継続 実施中			介護福祉士 国家試験 1名合格
③	情報収集	情報収集 面談	保護者へ 打診						保護者へ 働きかけ中			
④		地域調査	学校調査 相談員 情報共有									
⑤	求職者1名 問合せ・辞退	情報収集	求職者1名 問合せ・辞退	情報収集	求職者1名不 シルバー人材 1名確保	情報収集	求人募集中					
⑥	環境美化	環境美化 花壇剪定	施設巡回 不良個所 改善	施設巡回	環境美化 花壇剪定	環境美化	施設巡回	不良個所 改善	環境美化	施設巡回	LED照明 LED化	環境美化



丹南事業所 令和4年度 事業計画書

令和4年度所長 高木正人

方針  
 ・事業の生産性向上に努め、利用者の工賃向上を目指す。  
 ・利用者一人一人のニーズに応じた活動、作業時間を提供できる事業所を目指す。

事業計画の内容		具体的手段		責任者	
目標	目的	実行計画	期限	正	副
【就労継続支援B型】 利用者平均工賃15%増 R3年度平均工賃見込21,400円 (収益 214,000円/月) R4年度平均工賃目標25,000円以上 (収益 250,000円以上/月)	利用者工賃の確保。 安心して通所できる事業所運営。	① 将来的に利用者平均工賃50,000円以上を目標とし、令和4年度は平均工賃25,000円以上にむけ、新規作業や新たな取引先を獲得できるよう営業を月1回以上行う。また、米の収穫量を増やすため管理面積を約30a拡大する。 ② 作業ごとに手順書や治具を作成し、障がいの重い方でもできる作業を増やし、希望に応じて作業を選択できる作業場を目指す。また、作業時間についても柔軟に対応し、工賃については1万円の方もいれば、6万円の方もいる幅広いニーズに対応できる就労継続支援B型を目指す。	令和5年3月 令和5年3月	主任 主任	支援員 支援員
【就労継続支援A型】 利用者の生産能力向上 パン製造販売数 【291個/日→436個/日】	ペイク部門の収支改善 パン売上 40,740円/日→61,040円/日 (140円/個当たり平均単価)	③ 就労事業等収支の黒字化には、パン製造販売数が542個/日必要であるが、現状291個/日であるため、技術指導や、タイムスケジュールに沿って製造を行っていくことで、令和4年度は436個以上/日を目標に取り組み。また、生産能力の向上が困難な場合は、就労継続支援A型の廃止及び就労継続支援B型(定員20名)単独へのサービス変更を検討する。	令和4年12月	サビ管	支援員
【就労継続支援A型】 多くの顧客から選ばれ 県内一といえる商品開発 クッキー売上 (平均4万円/月) ↓ 新商品売上目標 (平均6万円以上/月)	・「のほん」との看板商品の確立 ・スイーツ部門の販売促進を強化。	④ インターネット等の情報や、他店の売れ筋商品の食味、価格等をデータ化していく。食材に関して無添加や県産食材等にこだわり、県内一とうたえる商品を開発し、スイーツ部門の主力商品を確立させる。 ⑤ 令和3年度異物混入が3件あったため、異物混入ゼロを目指し、食品衛生管理マニュアルに基づき記録管理していく。また、3か月に1回衛生講習会を行う。	令和5年3月 令和4年12月	主任 サビ管	支援員 支援員

スケジュール												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①	既存の企業と商談		新規作業の確保 箱折作業 200個/時→250個/時				新規企業と商談 地主様と交渉		新規作業の確保 箱折作業 250個/時→280個/時			
②	作業手順書・治具作成		実施・手順書修正				作業の選択制の開始					
③	動画視聴 改善点把握	支援実行・改善 291個/日→350個/日 サービス変更検討		評価	支援実行・改善 350個/日→436個/日 サービス変更検討		評価	サービス変更検討				
④	外部からの情報収集 情報整理		商品開発 会議	試作・検討・改善				試験販売・改善	評価	改善	商品化・販売	
⑤	衛生講習 会	作業場 衛生管理		衛生講習 会	作業場 衛生管理		衛生講習 会	作業場 衛生管理				

丹南事業所 令和4年度 事業報告

令和5年度所長 松浦 満夫

方針  
 ・事業の生産性向上に努め、利用者の工賃向上を目指す。  
 ・利用者一人一人のニーズに応じた活動、作業時間を提供できる事業所を目指す。

事業報告		
目標に対する結果	課題	今後の取り組み
【就労継続支援B型】 利用者平均工賃15%増の目標は達成できた。 令和4年度平均工賃35,100円/月	①新規作業の営業について月1度の営業はできていない。また、米の作付け面積を増やし収穫量が上がるが販売先の確保ができていない。 ②幅広いニーズに対応できるための作業種の確保はできていない。利用者の特性に応じた作業種目に変えていく必要がある。	①当事業所の取引先等に新規作業の営業を行う。 秋の収穫時期までに農家組合等を訪ね、より高く売れる販売先を見つける。 ②施設外での作業を含む、新規受託作業を開拓し、作業種目を増やし増収につなげる。
【就労継続支援A型】 278個/月となり達成できなかった。	③販売先の多くが学校であるため、春休み・夏休み・冬休みに売上が落ち込む傾向にある。休みの日の販売先の開拓が必要である。	③パン製造についてB型に移行した後に、春休み・夏休み・冬休みの部活動のある日等学校と連絡を取り、相談しながら販売できる日を増やし売上増を図る。
【就労継続支援A型】 クッキー売上げ 平均4万円/月 ⇒ 平均5.5万円/月	④競合店の売れ筋商品の食味については、パン屋を訪ね試食をしたが、データ化ができていない。	④データ化し、情報を共有しながら、販売するパンを再検討する。
	⑤衛生講習会を年4回開催し、食品衛生管理マニュアルに沿って、記録し管理したが、令和4年度は異物混入が2件発生してしまった。	⑤引き続き衛生講習会を継続開催して異物混入ゼロを目指し、取り組んでいく。

スケジュールに対する結果												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①	受託作業2件獲得		UGメタル(株)新規作業開始 メガネ箱折作業 平均208個/時				玄米15 トン入庫	DM封入 作業獲得	レンズ 検品作業 打診	DM封入 作業	UGメタル	箱折作業
②	箱折作業とラベル貼りの 作業手順書・治具作成済		箱折作業とラベル貼りの 作業手順書・治具作成済 UGメタル作業手順書未完成				米庫内 表示整備	DM封入 作業の 手順決め	DM封入 作業の 手順書	DMの手 順書の作 成	UGメタル作業の手 順書作成	
③	動画を参考 にパンの成 形を指導	パン製造数 291個/日→331個/日		パン製造数 291個/日→245個/日			パン製造数 291個/日→254個/日			パン製造数 291個/日→278個/日		
④	他店との味比較 水ようかんフェスタにて 試食を行った。		6月30日 商品開発 会議実施	試作 計3回実 施	商品開発アドバイザー 派遣事業に選定		アドバイザー等と会議(月1回) 試作及びパッケージ協議			水ようかんは商品は完成 賞味期限の検査中		
⑤	5月14日衛生講習会 実施		6月22日 作業場衛 生管理済	7月30日 衛生講習 会実施	8月19日衛生管理 点検実施 専門業者(アルプ)			作業場 衛生管理	衛生講習 会	作業場衛生管理の徹 底		衛生講習 会実施